

学校だより

平成29年7月3日



深まる絆 広がる夢

横浜市立左近山小学校
Sakonyama

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/sakonyama/> 7月号

電話：351-7856 FAX：351-7398

y3sakony@edu.city.yokohama.jp

夢がいっぱい左近山の子～仲間とともに まちとともに 未来とともに～

学校長 地口 朝美

14時45分、5年生愛川宿泊体験学習のバスが学校の西門に到着。

道路の渋滞もなく、予定より早く帰校しました。校庭に入ると、6年生たちが人垣をつくって、拍手と笑顔で一行を出迎えてくれました。その中を通り解散式が行われる体育館へ向かいました。体育館の壁には、「5年生、おかえりなさい。」と、メッセージが貼られていました。これは、いつも体力づくりを一緒にやっているペア学年の2年生が作製したメッセージでした。温かい出迎えやメッセージは、5年生や引率した教師、ボランティアの疲れを癒してくれました。

6月22日・23日に実施された5年生の体験学習は、天候にも恵まれ、有意義な2日間となりました。自然や仲間とふれあい、体験学習のめあてを意識して取り組むことができました。活動を行うたびに振り返り、その都度、めあてを確認しながら進めていました。

体験学習のスローガンは、「困あいさつ・困いっしょうけんめい・困考えて行動・困輪」は、子どもたちや教師が徹底してこだわって考えたスローガンです。

このスローガンのもと、教師は「子どもに任せるところは、とことん任せ、不十分なところは、見逃さず振り返り、次の活動でやり遂げる。」ということを徹底しました。子どもたちもそれに応え、責任ある行動ができました。

選択活動は、山登り・クラフト・ディスクゴルフでした。「最後まであきらめない」「仲間を励ます」「集中して取り組む」姿がどの場面でもたくさん見られました。

私は、山登りに同行しました。歯を食いしばり、疲れた足を引きずるように急坂を登る子どもたちの姿に励まされ、私も登頂することができました。ご褒美として待っていたのが、山頂からの眺望でした。最高のプレゼントは子どもたちにももらいました。クラフトでは、一人ひとりが集中して作品を仕上げていました。担当した教師は「どれも力作です。」と報告していました。ディスクゴルフは、緑いっぱいの森や庭園で、投げるたびに一喜一憂し、ゆったりと楽しい時間を過ごしていました。それぞれの選択活動での体験が、自信になり、仲間とのつながりを深めていたのは確かでした。

牧場での搾乳体験は、子どもたちにとって緊張するものでした。飼育担当の方が見守る中、ご指導いただいた方法で取り組んでいました。体験後、子どもたちに直撃インタビューをさせてもらいました。

「弾力があった。」「しわがあつて、ジュワという感じ。」「ふわふわだった。」「温かかった。」「柔らかかった。」「プルプルしていた。」「ざらざらしていた。」「難しかった。」等々。

一人ひとりが、自分で感じたことを素直に表現していました。十人十色で、誰一人として同じ表現がありませんでした。心で感じたことを自分の言葉で素直に伝えてくれました。私自身も、子どもたちの様々な感想から、緊張した気持ちや感動を共有させてもらいました。

そして、感心したことは、体験の最初から最後まで付き合ってくれた乳牛の大人しい姿でした。

仲間とともに味わう体験活動での感動はとても貴重です。その体験が自信になります。その自信が次への意欲的な活動につながると信じています。

